

令和 2 年 4 月 28 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12233

研究課題名(和文)精神科デイケアの生活支援の検討 - 通所者の生活機能を評価基準にして -

研究課題名(英文)The daily support of psychiatry day care: Base on the daily life functions of users

研究代表者

齋藤 深雪 (Saito, Miyuki)

山形大学・医学部・准教授

研究者番号：30333983

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、精神科デイケアの総合的な生活支援の中で、どのような生活支援が精神障害者の生活機能に効果的であるかを明らかにすることである。

その結果、各精神科デイケアが独自の生活支援を提供していたことを明らかにした。また、生活支援の内容は複合的で包括的な特徴であることを明らかにした。統合失調症の利用者の社会で生活する能力に効果的な支援は、日常生活の相談やプログラムであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神科デイケアは生活支援と医療を提供している。特に、精神科デイケアの生活支援は充実している。ただし、生活支援は多種多様で幅広い内容のため、その支援を評価は難しい。「精神障害者が支援を受けながら社会で生活すること」に対する精神科デイケアの生活支援の効果を共通指標として示すことができれば、国内外の精神科デイケアの生活支援を検討することができるようになる。それは、今後の精神科デイケアの発展に寄与することであり、精神障害者のリハビリテーションを促進することにつながる。

研究成果の概要(英文)：A purpose of this study was to clarify it in general daily support of the psychiatry daycare what kind of daily support was effective for the daily living function of users.

As a result, we clarified that each psychiatry daycare provided original daily support. In addition, the contents of the daily support clarified the characteristic thing that complex, was comprehensive. The supports that were effective for the daily functions of the users were consultation and a program of the daily life.

研究分野：看護学

キーワード：精神科デイケア 生活支援 生活機能

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 精神障害者のリハビリテーションにおける精神科デイケアの重要性

障害者総合支援法が施行され、精神障害者のリハビリテーションはこれまで以上に重要になっている。精神科リハビリテーションの目標は、「精神障害者が支援を受けながら社会で生活すること」であるが、精神障害者の社会生活を支える施設や体制の不十分さが問題になっている。その中で精神科デイケアは、生活技能を身につけるなどの生活支援と、再入院の予防などの医療を提供している。そのため、精神科デイケアは、精神保健福祉対策の施設の中で「精神障害者が支援を受けながら社会で生活する」というリハビリテーション目標に最も適した支援を提供している施設であるという点で、非常に重要な施設である。

### (2) リハビリテーションにおける精神科デイケア研究の課題

精神科デイケアのリハビリテーションに関する研究は、主に精神科デイケア通所者の生活技能に対する効果や、再入院予防などの医療に対する効果について検討されている。しかし、精神科デイケア通所者の生活技能への効果に関する研究は、研究者によって着目する生活技能と、その生活技能を測定する尺度が異なるため、精神科デイケアのリハビリテーション効果を共通指標として示すことはできていない問題点がある。

また、精神障害者が社会で生活する能力を把握する試みはなされてきたが、生活技能や生活の質などの生活の一部の能力しか把握できなかった。2001年に発表されたICF（国際生活機能分類）は、「社会で生活する能力」を生活機能という側面から捉えられることを提言した。ICFは、生活様式や文化の異なる国々が共通理解する手段として、世界から期待されている。ただし、ICFの具体的な活用方法については使用者にゆだねられている状況である。ICFに関する研究が積み重ねられているものの、ほとんどはICFの説明やICFの概念図のみを使用した研究である。

そのため、精神障害者の生活機能に関する精神科デイケア研究は少なく、「精神障害者が支援を受けながら社会で生活すること」に対する精神科デイケアの効果を明らかにできていない問題点がある。

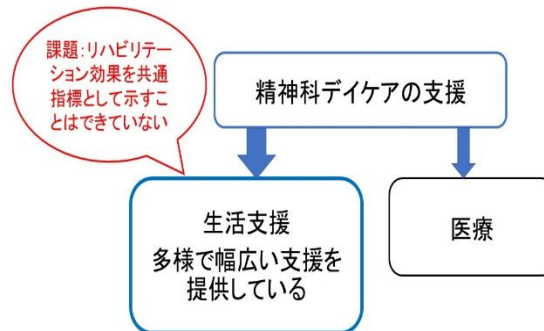


図1. リハビリテーションにおける精神科デイケアの課題

### (3) 申請者がこれまでに行った「精神障害者が支援を受けながら社会で生活すること」に対する精神科デイケア研究と今後の研究

リハビリテーションにおける精神科デイケア研究の課題から、精神障害者の社会で生活する能力、すなわち生活機能を把握する尺度を開発する必要があった。ICF（国際生活機能分類）の概念図と分類項目を具体的に活用し、「精神障害者生活機能評価尺度（他者評価）」と、「精神障害者生活機能評価尺度（自己評価）」を開発した（齋藤，2015 齋藤，2014 齋藤ら，2008 齋藤ら，2007）。これらの尺度を活用し、精神障害者が社会で生活するためには一定の生活機能（社会で生活する能力）が必要であることを明らかにした（齋藤ら，2013）。

次に、精神科デイケア通所者の生活機能の経時的な変化の特徴について検討した。精神障害は、身体障害のように固定化された障害でなく、変化しながら全体的に少しずつ改善していく特徴がある。精神科デイケア通所者の生活機能も単に右肩上がり に向 up するのではなく、変化しながら少しずつ向上することを明らかにした（齋藤，2013 齋藤，2010）。生活機能の向上に影響する生活背景の要因は、精神科デイケアに通所していること、自分が家事を行っている、通所目的をもっていることであった（齋藤，2014）。精神科デイケアの生活支援は、精神科デイケア通所者の生活機能に一定の効果があることを明らかにした。

しかし、これは精神科デイケアの総合的な生活支援の効果を示したことであり、具体的な生活支援の何が効果的であるかを解明できていない。精神科デイケアの生活支援は、生活技能を身につける支援、多種多様なプログラムの提供、個人面談によるフィードバックなど多岐にわたる。今後の研究では、精神障害者の生活機能に効果がある精神科デイケアの具体的な生活支援を明らかにし、その具体的な生活支援のリハビリテーション効果を明らかにする。これによって、精神科デイケアの具体的な生活支援の評価につながることを期待できる。

## 2. 研究の目的

精神科デイケアは、精神障害者が支援を受けながら社会で生活するために、重要な役割をはたしている。精神科デイケアは生活支援を提供する施設であり、この総合的な生活支援は精神障害

者が生活機能（社会で生活する能力）を維持・向上することに効果がある。ただし、総合的な生活支援の中で、特にどのような支援が効果的であるかは明らかになっていない。

本研究の目的は、精神科デイケアの総合的な生活支援の中で、どのような生活支援が精神障害者の生活機能に効果的であるかを明らかにすることである。これによって、精神科デイケアの生活支援の評価につながることを期待できる。

### 3. 研究の方法

#### (1) 平成 28 年度の研究

平成 28 年度は精神障害者の生活機能に関する精神科デイケアの生活支援の実態を明らかにするために、情報収集調査と聞き取り調査を実施した。精神障害者の生活機能についての精神科デイケア研究は少ないため、国内国外の文献を詳細に検討した。

#### (2) 平成 29 年度以降の研究

##### 調査方法の検討

平成 28 年度の調査から、各精神科デイケアは独自の生活支援を提供しており、生活支援の内容は複合的で包括的な特徴のあることを明らかにした。統合失調症に対する生活支援を明確にする課題がみえてきた。そこで、精神科デイケアが提供している独自の生活支援の実態を明らかにするために、調査方法と調査内容を検討した。

##### 調査の実施

調査は精神科デイケア科長 500 名に質問票を用いた調査を実施した。質問票の内容は、社会で生活する能力のうち特に重要視している能力、デイケアの支援に関することなどであった。分析は、統計的に分析した。

### 4. 研究成果

#### (1) 平成 28 年度の研究成果

平成 28 年度は精神障害者の生活機能に関する精神科デイケアの生活支援の実態を明らかにするために、情報収集調査と聞き取り調査を実施した。精神障害者の生活機能についての精神科デイケア研究は少ないため、国内国外の文献を詳細に検討した。

その結果、各精神科デイケアが独自の生活支援を提供しており、生活支援の内容は複合的で包括的な特徴のあることを明らかにした。精神科デイケアは、20 歳代から 70 歳代までの幅広い年齢の利用者の生活背景や利用目的に合わせて、生活支援を提供していた。精神科デイケアを利用する人の中で、統合失調症をかかえた人が最も多い。精神科デイケアは統合失調症をかかえた利用者に、プログラムや定期的な面接、会話などを通じて複合的で包括的な生活支援を提供していた。今後は、統合失調症をかかえた利用者への複合的で包括的な生活支援を明確にする必要性が明らかになった。



図 2. デイケアの生活支援

#### (2) 平成 28 年度以降の研究成果

精神科デイケア科長 500 名に質問票を用いた調査を実施した。分析対象は 106 名(有効回答率 21.2%)であった。デイケア科長の年齢は  $46.0 \pm 8.6$  歳であり、科長の経験年数は  $5.7 \pm 5.2$  年であった。

社会で生活するために必要な能力は、症状のコントロールや症状悪化時の対処をできること 101 名 (95.3%)、規則正しい生活をするなどの生活をする力をつけること 100 名 (94.3%)、自分の生きがいや目標をもつこと 90 名 (84.9%) の順で多かった。利用者の社会で生活する能力に効果的な支援は、日

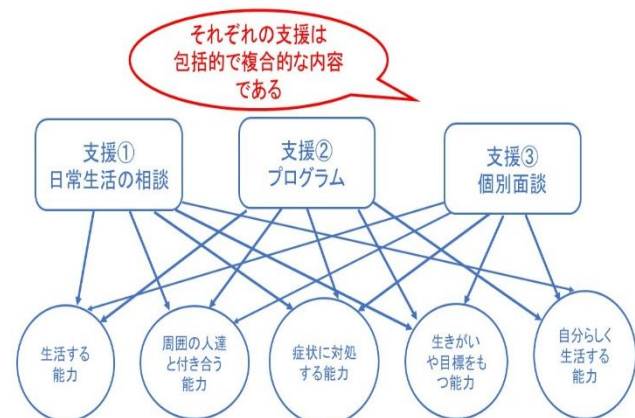


図 3. デイケアの生活支援の実態

常生活の相談 91 名 (85.8%) , プログラムの提供 89 名 (84.0%) , 個別面談 82 名 (77.4%) の順で多かった。プログラムを検討する基準は利用者の目的別が 95 名 (89.6%) と最も多かった。

統合失調症のデイケア利用者が社会で生活するためには、統合失調症に関する自己管理能力と日常生活に関する自己管理能力が重要だと認識していた。これらの能力を向上するために効果的な支援は日常生活の相談、プログラムの提供であった。利用者の生活背景と生活に関する能力は個別性が高いため、個別性を配慮した日常生活の相談が効果的だったと考える。またプログラムの提供が効果的だった理由は、利用者の目的を考慮した上でプログラム内容を検討したためだと考える。統合失調症の利用者の社会で生活する能力に効果的な支援は、日常生活の相談やプログラムであった。

これまでの調査結果をふまえ、日常生活の相談、プログラムに着目し、具体的な生活支援は精神科デイケア利用者の生活機能にどう影響しているかを明らかにする予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Miyuki Saito, Eiko Suzuki	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 Validity and Reliability of the Japanese version of the Rathus assertiveness schedule in Patients with Schizophrenia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Rural Medicine	6. 最初と最後の頁 172-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="https://doi.org/10.2185/jrm.2973">https://doi.org/10.2185/jrm.2973</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Miyuki Saito, Mariko Kato, Eiko Suzuki, Tomomi Azuma, Akiko Maruyama
2. 発表標題 Functioning of psychiatric daycare center users in Japan based on the Functioning Scale
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤深雪, 加藤真理子
2. 発表標題 精神科デイケア利用者の生活機能の実態 1年後の生活機能点, 活動点, 参加点の比較 -
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miyuki Saito, Mariko Kato
2. 発表標題 Functioning and related background factors in psychiatric day care users in Japan
3. 学会等名 6th Worldwide Nursing Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤深雪, 加藤真理子
2. 発表標題 施設利用者の生活機能とそれに影響する背景因子
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤深雪, 加藤真理子, 鈴木英子, 吾妻知美
2. 発表標題 精神科デイケア利用者のアサーティブネスと通所目的達成度の関係
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤深雪, 加藤真理子, 鈴木英子, 吾妻知美, 丸山昭子
2. 発表標題 精神科デイケア利用者の生活支援と通所目的の関係
3. 学会等名 第36回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	加藤 真理子  (Kato Mariko)  (80715350)	山形大学・医学部・助教    (11501)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 英子  (Suzuki Eiko)  (20299879)	国際医療福祉大学・医療福祉学研究科・教授   (32206)	
研究分担者	丸山 昭子  (Maruyama Akiko)  (20338015)	松蔭大学・公私立大学の部局等・教授   (32719)	